

姫路市史 第十一巻下

史料編 近世3

監修 神戸大学名誉教授
八木哲浩



南田 莫和 謹

姫陽秘鑑

三十八

(村境争論絵馬 上伊勢 多賀神社所蔵)

『姫路市史』史料編近世3の発刊に当たって

今回発刊しました第十一巻下史料編近世3は、町方・村方の民衆の生活と姫路商人の活躍に重点を置いて393点の貴重な史料を掲載しています。

近世の史料編としては、すでに第十巻に藩政史料をまとめ、第十一巻上には、姫路町や飾万津町の町方史料と村明細帳を主とする村方史料を掲載しましたが、今回の配本をもって、近世史料編は完結しました。

本巻には、江戸時代中期から全国的に盛んになった木綿栽培や幕府公認となった絞り油業などの姫路市域における実状と塩業・皮革業関係の史料をはじめ、当時の人々の死活問題であった山や水をめぐる境界や水利の争論史料など多岐にわたっています。

経済活動を見ると、遠く山形にまで北前船や最上川の舟運を利用して古着や木綿等を送り出す奈良屋や表屋の活躍、姫路革に関する中二階町革会所文書等により往時の姫路商人の活躍が偲ばれます。飾磨・網干関係では城下町の外港として漕保を建設し整備していく姿や、千草鉄を大坂や灘に送る網干港の役割など播磨経済圏に関する興味深い史料を満載しています。

また、文人大名として知られる酒井忠以の「玄武日記」では参勤交代で和歌を楽しむながら帰藩する姿や有馬温泉で湯治する生活などが描かれています。

その他、別箱に付図として二次本多時代の「姫路城内曲輪絵図」と「城下町絵図」の二点を添えています。特に「内曲輪絵図」は、内曲輪の建物配置と間取りを記した貴重なもので、江戸時代の姫路藩の迎賓館であった向屋敷には池を配置した日本庭園のあったことが初めて明らかとなりました。

このように種々の史料から、近世期に活躍した先人の息吹と当時の世相を感じとれる史料編となっています。本巻が今後とも市民の皆様はじめ歴史学習の場で活用されることを念願するものです。

購読申込みについて

下下

巻巻 第十第十

- ・本の体裁 A5判、上製本、中性高質紙使用 装丁用織物表紙 貼入
- ・頒 価 第十一巻下 史料編近世3 五、七〇〇円
- 第十五巻下 別編文化財編2 五、三〇〇円
- ・発売予定日 第十一巻下 史料編近世3 平成十一年六月一日
- 第十五巻下 別編文化財編2 平成十一年七月一日
- ・頒布方法 史料整理室、又は、市政情報センター(市役所一階)でお求め下さい。

郵送希望の方は、電話で、史料整理室へお申込み下さい。

城内図書館 史料整理室

〒670-0012 姫路市本町六八一二五八(日本城郭研究センター内)

電話(〇七九二) 8914886